

第786号 ヤスクニ通信 2020年7月10日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会

＜祈りのすすめ＞

「善人すぎるな。賢すぎるな。どうして滅びてよかろう。」（コヘレトの言葉 7章16節）

聖書にどうしてこんな言葉があるのでしょか。悪人であり、愚かであることが戒められるのは当然ですが、ここではなんと善人でありすぎることと賢すぎることが戒められているのです。こんな言葉は断じて認めないという人がいるでしょう。信仰は神のみ前で悪人を善人に、愚者を賢者に変えるのだから、善人すぎて、賢すぎて、そのためにたとえ滅びてしまうことがあっても、それを受け入れるのがキリスト者ではないか、というわけです。

一方、ここに共感する人もいるでしょう。悪の道にのめりこんで身を滅ぼしてしまった元も子もありませんが、清く、貧しく、美しく生きてゆくのも困難で、人生で決断が求められる時、あまり潔癖にならず、中庸の道を選ぶのが良いということです。ただそういう生き方を悩みに悩んだ末ならともかく、簡単に選んでしまうと、信仰の人生は妥協の人生になってしまいます。

実際、ここの解釈は諸説あってなかなか難しいのですが、そのうちの一つの説をもとに考えてみました。この世に善のみ行って罪を犯さないような人も、また完全な賢さに達する人もおりません。しかし現実には、人間は自分を善人や賢者だとみなしがちです。それが行きすぎる時、どんな事態を招いてしまうでしょうか。コヘレトは極端な善や賢さに警鐘を鳴らしているので

す。絶対的な正義と完全な知恵に人間が到達することは不可能で、イエス・キリストだけが体現されたのですが、そのことをわきまえないと、自分が 100 パーセント正しく相手は 100 パーセント悪いとするところにサタンがしのびよってきます。

靖国神社問題特別委員会ではたびたび戦争責任の問題を訴えてきました。1931 年以降、日本が起こした戦争で死んだ人の数は日本人だけで 310 万人、諸外国はおよそ 2000 万人とされており、そこに至った原因として、現人神・天皇を核とする国家神道の責任があったことは確かです。

世界には、共産主義を標榜する国家によって行われた数々の人権侵害や、イスラム教とテロの問題もあります。

ただ私たちは、他の宗教や思想を批判する時に、キリスト教徒が歴史的に行ってきました罪悪に無自覚であってはなりません。南北アメリカ大陸で多くの先住民を絶滅に追いやったことや、人種差別その他現在進行中の事柄があります。自分たちは絶対に正しいとして過ちを認めないまま、他の宗教や思想を糾弾しているだけでは広範な人々の共感は得られません。キリスト教会は自分たちが行った罪を悔い改めることで他の宗教や思想を批判でき、次の時代の先導者になれるのではないかでしょうか。

＜祈り＞ 神様。教会がイエス・キリストだけに栄光を帰し、自分自身の栄光を求めることがこれ以上ありませんように。

井上 豊（広島長束教会牧師）

新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす（17）

小塩海平(東京告白教会長老)

Q16 教会で「天皇」の問題を取り上げることは、伝道の妨げになりませんか？

A 確かに、求道者に向かっていきなり天皇問題を取り上げても、理解できずに妨げになったり、つまずきを与えることがあります。しかし、真の神を知り、信じ、礼拝するようになると、神ならざるものと知ることとは不可分のことです。したがって、求道者は天皇の問題について教えられるよりも、まず真の神について正しい認識を持つように教えられなければなりません。

わが国で明治以来天皇制教育は、「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス」というようなものでしたから、そしてこれが国民の大多数の人々の心の奥深くまで浸透していますから、天皇のことを取り上げること自体つまずきを引き起こす人もいます。しかし、天皇のことを語ってはならないとタブー視することそのことが、天皇神格化と深く結びついております。絶対者である神の前にすべてのものを相対的なものと理解する信仰者の立場からすると、この国で神ならざるものを神としてきた歴史を顧みて、天皇の問題や、祖先崇拜の問題に触れずに、正しい福音宣教を推進し、求道者を真のキリスト者に導くことはできません。

天皇の問題を単なる政治上の問題とだけ理解して、信仰の問題として取り上げることができず、まるごと天皇神格化の大きな枠組みの中に取り込まれてしまっていた戦前の教会の妥協の歴史を忘れてはなりません。

新 Q16-1 天皇問題や靖国問題との取り組みが伝道の妨げになるのでは？という問いかけは、いまもしばしば耳にしますね。

新 A16-1 確かに。それにしても Q16 の問答は何ともチグハグで、問い合わせが噛み合っておらず、結局、伝道の妨げになるのか、ならないのか、注意深く読んでも私には理解できませんでした。天皇問題は、真の神について教えてから、後出せよ、といっているようにも読めます。私なら「伝道の妨げになってなにが悪い？」と反論したいところです。

新 Q16-2 伝道の妨げになったら、悪いに決まっているじゃないですか？

新 A16-2 そうでしょうか。伝道至上主義とでもいべき日本キリスト教会の姿勢そのものが問題だったとはいえないでしょうか。結局、天皇問題や靖国問題に取り組んだかどうかに拘わりなく、ほぼすべての教会が伝道不振に陥っている現況を鑑みれば、こういう問い合わせの立て方自体が間違っていたという指摘がなされなければならないはずです。

新 Q16-3 それではあなたは教勢が低下してもよいと考えているのですか？

新 A16-3 まず、教会の存在意義が、人数や財力で決

まるのではないということをはっきりさせたいのです。教会が目指すのは、地の塩、世の光としての役割を果たし、キリストの体たるにふさわしい証を立てることです。天皇問題や靖国問題との取り組みは、まさにこのような教会の使命に係わる事態であり、取り組まないなどという選択肢はありません。それは神の栄光を顕すことを使命として掲げる教会にとって当然のことです。

現象としては、教会が天皇問題や靖国問題に熱心であれば、それに反発する人は去って行くでしょう。逆に、教会が天皇問題や靖国問題に不熱心であれば、天皇問題や靖国問題に关心を持つ人たちは寄りつかないはずです。伝道的にどちらがマシかという議論は、やはりナンセンスではないでしょうか。

新 Q16-4 この問答の枠組み自体に問題を感じているわけですね。

新 A16-4 最後の段落で、かつての教会が天皇問題を信仰の問題として取り上げることができなかつたという問題把握能力の不足が指摘されています。しかし、私は神の御支配に対する畏れや讃美、信頼を失っていた教会を教会と呼んでいいのかどうかを、まずもって吟味すべきだと考えます。

<協議資料>～賛成、反対、他の視点などのご意見をお寄せ下さい～

以下の論説は、大会ヤスクニ委員会の統一見解ではなく、大会時の靖国問題全国協議会で発表される予定であった講演の一部ですが、大会が書面開催となりましたので、誌上協議会とし、その発題（抄）として掲載しました。これに対する応答をお寄せくださいり、今後の通信で議論を深めていければと願っています。なお、応答は800字程度以内でお願いします。また、著者が東京告白教会の修養会で発題した関連原稿を今号に同封しましたので、増し刷りして配布頂ければ幸いです。（古賀）

安全・安心の教会でいいのか？

小塩海平（東京告白教長老）

私たちは、靖国問題に取り組む中で、「教会と国家」という枠組みで物事を捉え、国家の命令と教会のつとめが衝突する際には、人に従うよりも神に従うべきことを学んできた。しかし、この度の新型コロナウイルス禍に際しては、少なからぬ教会で、衝突が起こらない前に、「自粛」という形で礼拝を取りやめてしまう事態が起きている。かつて戦時中、自らをごまかして国家と迎合し、時の流れに身を委ねた教会の姿勢と重なるものがあるように思われてならない。

確かに、教員の健康維持は大切である。防護服を着用し細心の注意を払っている病院ですら院内感染を防げないような状況にあっては、主の日の礼拝がクラスターの発生源となる危険は小さくない。しかし、主の日の礼拝は教員の安全・安心を祈願する内輪の行事ではない。神の国の拡がりにふさわしく、あらゆる被造物に対して開かれていなければならぬ。日本キリスト教会憲法第1条4項には「教会および伝道所は、主の日ごとに礼拝を行い、神の主権を明らかにし、神の福音を宣べ伝え、聖礼典を行い、キリストにある交わりを厚くし、互いの信仰を堅くする」とあり、第4条1項には「礼拝は、主の日ごとに、時と所とを定め、秩序を正して行われる。」とある。これらの条項に、何らの留保もあるいはないことは、明々白々である。私は、新型コロナウイルス禍に際しての公同礼拝の自粛は、憲法違反であると考えている。天国の鍵を委ねられている教会が、主の日に門を閉ざしてしまうということは、あってはならないことである。このような時代だからこそ、教会に救いを求め、礼拝に出たいと思う人があつてもおかしくない。そのような人を門前払いしてしまう教会を、神は放置したもうであろうか。

そもそも教会に通うにあたっては、コロナウイルスに感染するリスクだけでなく、交通事故の危険もあり、熱中症になる恐れもあり、さまざまな無数といつてもよいリスクが存在する。私たち人間は極めて無力であり、神の庇護のもとにあるととはいえ、生きることそのものが危険である。もし、あらゆるリスクが取り除かれ、快適で何の不安もない状況で、安心して神礼拝に集中できるというのが私たちの目指す理想であるとするなら、「安全・安心」こそ、私たちにとって「金の仔牛」になっているということを意味しているのではないだろうか。このような姿勢は、教会が痛みを忘れさせる麻薬のように「安全・安心」を教員に振りまいっていることに起因しているのではないかと私には思われてならない。毎週、教会に行けば、何となく安心できるという程度なら、一種のお守りのようなものである。牧師たちが、やさしい安心させる言葉を語り、「今のままのあなたで救われるのだ」などと説教するのは、教員に対する忖度であると私は思う。私たちが生かされているのは、神を礼拝するためなのであり、礼拝をやめてまで生きのびようすることは、教会にとって有害であり、自殺行為ですらある。礼拝は安全・安心を生み出す^{ゆりかご}搖籃ではなく、私たちに悔い改めを迫る危機的な生まれ変わりの場となるべきである。

日本キリスト教会の中に、野宿者やシングルマザー、留学生や不法滞在者などがほとんどいるのは、たまたまそのような人たちが教会に来なかつたというのではなく、そういう人たちが近寄りがたい雰囲気があるからではないだろうか。「今のままのあなたでいいのだ」というような説教が通用しない人たち、つまり、今のままでは生きていけない人たち、いまの社会に決して安心できないような人々は、教会にとって想定外だし、逆に、そのような人たちにとって、教会は無用の長物としか言いようがない。

私は、いまだからこそ、いかなる時にも公同の主日礼拝を守ることを前提にしつつ、あらゆる人に対して、教会が門戸を開いているべきことを確認したいと思う。そして、私たちが意識的・無意識的に避

してきた人々のことを視野に入れる努力を始めなければならないと思う。

私たちは、日本における安全・安心な生活が、国内における、いわゆる「負け組」と呼ばれるような人たちや、途上国の貧しい人々からの搾取によって成り立っている事実を、なかなか知り得ないでいる。まず教会が、自分たちだけの「安全・安心」神話を打破しなければならない。そのためには、現状に甘んじないで声を上げる他の少数者と痛みを共有し、周囲の社会に埋没しない、異質な存在となることが必要である。私たちは、地上に安住の地をもたないやどり人である。私たちの国籍は天にあるのだから。

<ヤスクニ関連ニュース>

*コメントは報告者：古賀清敬

○持続化給付金「宗教法人受給すべきではない」京都仏教会、憲法違反と声明

約1000寺院が加盟する京都仏教会（有馬頼底理事長）などは、新型コロナウィルスの影響を受けた中小企業などに政府が現金を支給する「持続化給付金」について、宗教法人は受給を求めるべきでないとする声明を発表した。宗教界の一部には、経済的に追い詰められている宗教法人を持続化給付金の対象に加えるよう、政府・与党と交渉する動きがあると指摘。宗教法人の業務自粛による収入の減少を補填するための公金支出は宗教への援助であり、憲法の政教分離原則に違反するのは明らかだと主張した。9日付。その上で、個々の寺院の大多数は檀信徒の布施・寄進に依存しており「営業自粛などで大きな影響を受けた事業者」に相当しない▽仮に申請する場合、確定申告書による収入の確認は、非課税の宗教法人にとってありえない手続きだなどと結論付けている。（毎日；6，10）

*日本キリスト教協議会（NCC）靖国神社問題委員会では6月12日に、「持続化給付金の宗教法人への適用に関する私たちの考え方～政教分離原則が守られるように」との反対声明を出し、また同日、政教分離の侵害を監視する全国会議は、公益財団法人日本宗教連盟宛に「政教分離原則を重視し、持続化給付金の宗教法人への適用に反対します」と題する声明書を発表した。

さらに、日本バプテスト連盟理事会も、「断固抗議する」との声明を出した（18日付）。日本キリスト教会も警戒を怠ってはならない。また、「雇用調整助成金」については意見が分かれるだろうが、やはり信教の自由と政教分離原則を基軸に判断すべきで、違憲であり、教会の独立性を売

<編集後記> イージス・アショアは停止したのに、なぜ辺野古は撤回しないのか。露骨な沖縄（琉球）差別/韓国人・台湾人戦死者の合祀は取り下げる。「補償」からは排除する。この矛盾は戦後処理における人種差別/学生給付金からも朝鮮大学校を排除する日本人種差別に鈍感であってはならない。敵意を減ぼす和解の福音を委ねられているのだから。（K生）

り渡す愚かな行為ではないか。

○辺野古 工事再開

政府は12日、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先とする名護市辺野古の海で、2カ月ぶりに埋め立て工事を再開させた。感染防止策が整ったと政府は説明するが、玉城デニー知事は7日の県議選で当選者の過半数が移設反対派だったことも踏まえ、「改めて、民意は明確になった」と語った。米軍キャンプ・シュワブゲート前では数十人の住民らが抗議した。（朝日；6，13）

○韓国人元戦犯ら 補償解決を訴え 「次の国会で」

第二次世界大戦後の軍事裁判で「日本人」のBC級戦犯として裁かれた朝鮮半島出身の元軍属らが、日本政府による援護の対象外とされている問題について「戦後75年の今年こそ立法解決を」と求める記者会見が15日、国会内であった。韓国人元BC級戦犯でつくる「同進会」の李鶴来会長（イハクネ）（95）は「日本政府は日本人の元戦犯には恩給や弔慰金を出しているが、同じ戦犯でありながら韓国、台湾出身者には何もしない。あまりに不条理です。次の国会にはぜひ解決していただき、亡くなった刑死者に申し訳が立つようにしてほしい」と訴えた。（朝日；6，16）

○★緊急連絡！ ノー！ハプサ（合祀）第2次訴訟控訴審第2回口頭弁論（7月9日）は、裁判所により期日取消しとなりました。

786号ヤスクニ通信 2020年7月10日

発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会

発行人 古賀清敬 編集 小塩海平

発行 芳賀繁浩（日本キリスト教会大会事務所）